



代表取締役社長 古川雅裕さん

地元のいいものを伝えたいという思いから、もの作りに取り組む仲間と一緒に、この商品を作りました。この菓子を通して、白河の歴史やまちの魅力なども伝えていきたいと思っています。

農政課 内2224

白河ブランド 認証 第19号

白河蔵めぐり酒ゼリー (千駒・登龍・霧の華)



(株)大黒屋

白河が誇る優れた製品を紹介！

地元蔵元のこだわりの地酒を使ったゼリーで、金箔が入った千駒酒造の清酒「千駒」、大谷忠吉本店の特別純米「登龍」、有賀醸造の微炭酸日本酒まっこり「霧の華」の3種類があります。お酒の風味をいかし、フルーティーですっきりとした味わいに仕上げていますので、日本酒が苦手な方でも、味の違いや特徴を利き酒感覚で楽しむことができます。

また、酒蔵の扉を表紙にした商品のパンフレットでは、100年以上にわたり継承してきた蔵元の酒づくりの歴史や伝統などが紹介されています。

蔵人の思いをくみ取って作った酒ゼリーをぜひ味わってください。

新シリーズで学ぶ 白河歴史人物伝

Vol.1

白河結城家の礎を築いた武将

結城宗広

(生年不詳～1338)



木村玉淵「結城宗広像」
(白河市歴史民俗資料館蔵)

1300年代前半、鎌倉時代末期から南北朝時代初期にかけて、白河結城家を歴史の表舞台に押し上げたのが白河を治めた結城宗広です。

宗広は白河結城家を興した祐広と、その妻で熱田神宮(名古屋)の大宮司の娘との間に生まれました。左衛門尉・上野介の官名を名乗り、入道(仏門に入ること)後は道忠と称しました。

鎌倉幕府内で結城家は、有力な御家人の一人でしたが、元弘3年(1333)5月、鎌倉にいた宗広は後醍醐天皇の倒幕の命を受けて挙兵し、新田義貞らと幕府を滅ぼします。その恩賞で各地に領地を与えられたほか、天皇が陸奥国司

(国の管理者)に対し、国内統治は宗広の支援を受けるよう指示するなど、厚い信任を受けました。また、天皇から結城本家に代わり「惣領」(一族の代表)にも命じられています。

しかし、時代は後醍醐天皇と足利尊氏の対立で天皇家が二つに分裂した「南北朝時代」を迎えます。天皇(南朝)を支える宗広は、白河から二度出陣し尊氏(北朝方)と戦いました。一度は勝利し、天皇から「公家(朝廷)の宝」とまで賞賛されます。しかし二度目は破れ、天皇が拠る吉野(奈良県吉野町)に撤退、陸奥での南朝勢力立て直しを図り伊勢国から船で出発しますが、嵐で吹き戻され、再び白河に戻れずに没しました。

白河結城家は、その後豊臣秀吉の時代まで約250年、白河を領しました。宗広はその確固たる礎を築いた人物といえます。



感忠銘碑(搦目)

宗広らの顕彰碑で、文化4年(1807)に地元の庄屋内山家が主導し作りました。題字は松平定信の筆。

文化財課 ☎23310